

# 全国の学校で導入、大反響！ 不登校によりよく対応し、ひきこもりを予防する



DVD  
VHS

フォーラム **対応**

**登校拒否** 第1,2,3部



【全3部】

セット価格 54,000円(ライブラリー価格108,000円)(本体価格)

第1部  
(上下巻)

高橋良臣が語る  
「よりそう」ということ



第2部

石川憲彦が語る  
「育ち合う」ということ



第3部

親と子が語る  
「分り合う」ということ



## 子どもが小さくても大きくても関係を築き直せます。

### ●子どもたちは助けをもとめています

なぜ不登校は増え続けているのか。子どもたちとその環境が抱える問題の根深さを反映しているといえます。子どもたちは援助を求めています。親は、教師は、そして子ども自身は、不登校とどのように向き合えばよいのでしょうか。

### ■子どもたちの本当の気持ち・ホッネはどこにあるのか

#### ■子どもが「死にたい」と言ったらあなたはどうしますか

#### ■頭が痛い、熱がある、学校へ行けない、とはどういうことか

#### ■いじめと不登校との関わりは

#### ■大人に求められているものは何か

#### ■不登校・登校拒否とは何か

#### ■こもること、とは何か

#### ■親と子が分かり合うとはどういうことか

#### ■親と子はともに成長することは出来るのか

こんな問題に答えていきます。

### ●子どもとの関係を蘇らせ、ひきこもりを予防する

不登校を経験していない人たち、すべての親たちにも見ていただきたいビデオです。大人と子どもの普段の関係、家庭内での親と子の関係を生き生きと蘇らせるヒントが沢山含まれています。ともに見ることで、教師、父、母、子の新しい関係の築き直しにぜひご利用ください。

### ●学校で、地域で、ご家庭で、ぜひご利用ください

共通理解を深めるためにご利用ください。教育相談でご活用いただくこともできます。学校での健全育成の目標にそって有効に活用していただけます。

### ●ビデオをご覧になった方々からの反響

●「自分がいつも責められているような気がしていたが、ビデオを見てホッとしたとともに、視野が広がるような気がした。」 Yさん(母親)

●「子どもが様々な方法でコミュニケーションしていることに気づかされた。良い関係を築く糸口がつかめた。」 Kさん(父親)

●「自立を助けながらもよりそうことの大切さが良く理解できた。」 Iさん(高等学校教諭)

●「子どもの本心が分からない、親はどう考えているのか、と悩むことが多かった。ビデオを見て当事者の理解が深まり、対応へのヒントがつかめ、役立った。」 Tさん(中学校教諭)

●「年齢に関係なく子どもが共通の課題を抱えているということに気づかされた。」 Gさん(小学校教諭)

●「受け入れることは大変だが、ビデオのケースが励ましになると感じた。」 Oさん(スクールカウンセラー)

株式会社テレマック

〒106-0032 東京都港区六本木4-3-11 六本木ユニハウス408 Tel.03-3408-0417 Fax.03-3408-0427

<http://www.telemack.com>

第1部

# 高橋良臣が語る「よりそう」ということ

●上下巻 69分/¥22,000 [本体価格]

●不登校と向き合って約30年。第一人者として有数の豊かな体験をもつ高橋良臣氏が不登校・登校拒否の本質を語ります。不登校の投げかける問題の根底にある人と人との関係。学校と子どもとの関係。幾重にも折り重なった誤解と思い込みの悪循環を、高橋氏の深い経験に根ざした生きた言葉が解きほぐします。日々の対応で役立つヒントはうなずけるものばかりです。



## 主な内容

- 上巻** 30分 [登校拒否の初期での対応] **下巻** 39分 [こじれたケースでの対応]
- ・親や家に固着する背景について
  - ・子どもの自覚について
  - ・関係としての心について
  - ・家庭内暴力について、等々
  - ・子どもが必要な援助について
  - ・子どもたちの自立の要件について
  - ・「よりそう」ということについて
  - ・豊かな人生と登校拒否について

《語り手》高橋良臣プロフィール  
●登校拒否文化医学研究所代表 ●臨床心理士

北海道大学獣医学部卒業  
日本ルーテル神学大学・神学校卒業  
30年程前、静岡県の(通称)デンマーク牧場に牧師として着任。そこで後に登校拒否として知られる状態の子どもたちと暮らし始める。これは不登校に全人格的に関わった実践のわが国における初期の有数の例として広く知られる。その後登校拒否文化医学研究所を設立。全国の教育委員会、学校へ助言、提言。立場を越えたすべての人々の気持を代弁する豊かな経験と当事者たちの苦しみを汲んだ深い助言、子どもたちの力を信じるアドバイスは多くの人々の信頼を得ている。

《聞き手》佐野洋 ジャーナリスト

第2部

# 石川憲彦が語る「育ち合う」ということ

●全1巻46分/¥18,000 [本体価格]

●忙しい現代の中で立ち止まる子どもたち。不登校の子どもたちが託すメッセージは、ひょっとすると大人たちもどこかで発しようとしているメッセージなのかもしれません。第2部では、より広い視野で、豊かな臨床経験の中から、石川憲彦氏が子どもの「身の守り」と大人の「見極め」について語ります。普段は子どもと関わることの少なかった父親たちにも理解していただきやすい内容です。もちろん家族、教師にも活用していただける智慧がたくさん入っています。



## 主な内容

- 全一巻** 46分 [「育ち合う」ということについて]
- ・年齢を越えて共通する子どもたちの課題
  - ・「待つ」とはどういうことか
  - ・こもるということ
  - ・大人が子供から学ぶこと
  - ・本当の信頼関係とはなにか
  - ・弱さを認め合える社会、等々

《語り手》石川憲彦プロフィール  
●林試の森クリニック院長 ●児童精神科医  
●雑誌「ちいさい おおきい まわいっつよい」編集委員

東京大学医学部卒業  
小児科医として出発した石川氏は、障害を持つ子どもを支える運動に関わるなか、医療と教育について関心を持ち続ける。不登校に接して、「身を守る」子どもたちの存在に出会う。以来、子ども文化への関心と社会への広い視野にたった提言を続ける。NHKラジオ教育相談での人間性に富んだ回答が深い共感を呼んでいる。

《聞き手》佐野洋 ジャーナリスト

第3部

親と子の心に光をあてる待望のビデオ!

# 親と子が語る「分り合う」ということ

●全1巻68分/¥14,000 [本体価格]

●不登校のトンネルを抜け出たときに、溢れ出た大人と子の本音。大人と子の和解、すべてを脱ぎ捨てた親と子の交流。不登校についてこれほど率直に胸を開いて語るビデオはあったらどうか。子は小学校2年生の時以来不登校。現在23歳。子は死を考えたこともあったが、親はなかなか気づけない。親は子の友達をつくろうと親の会と子ども会をつくる。子どもたちはやがて自分の道を歩み始める。苦しいこともあったが、不登校を通して親はさまざまな気づきを得て行く。親は語ります「親も子ども、もっと楽に生きましょうよ」と。



## 《語り手》丹羽みつ枝(親)

私には切実に人に伝えたい事があるだろうかと思いました。子ども2人が学校へ行かず、不登校の親の会と子ども会を10年以上やってきましたが、マスコミの言葉にも、身近な人々の言葉にも、いつも「そうじゃないと思うんだけど…」と感じていたのです。このビデオでは、子どもが学校へ行かなくなった困っている親の素朴な疑問に私達親子がひとつづつ答えると言う形になっています。生活の中から出てきた問いと生活感を伴う答えがこのビデオをわかりやすいものにしていないかと思えます。学校の先生にも親にも、体験者のおもいが伝えられたら幸いです。

## 《語り手》丹羽仁(子)

今回のビデオの事は不登校をして生きてきた自分の人生をふりかえる良い機会でした。反省ばかりの人生で助けられる事の多いボクが考えてきた事の一部ですが、親子で話す時の参考にしていただければ幸いです。

《聞き手》佐野洋 ジャーナリスト

●ご注文は ——

企画・制作・著作  
**株式会社テレマック**

〒106-0032 東京都港区六本木4-3-11 六本木ユニハウス408

Tel.03-3408-0417 Fax.03-3408-0427

<http://www.telemack.com>